

沿革

- 昭和36年(1961年) 10月 浜名湖カントリークラブ開場
コース設計者は安田幸吉氏
初代会長兼理事長は(株)静岡銀行頭取 平野繁太郎氏
初代社長には鈴木自動車工業(株)(現スズキ(株))社長 鈴木俊三氏が就任
- 昭和43年(1968年) 7月 第19回日本プロゴルフ東西対抗競技開催
- 昭和46年(1971年) 7月 「潮見コース」を新規オープン、合計27ホールとなる
- 昭和47年(1972年) 8月 中部オープン選手権競技開催
- 昭和48年(1973年) 11月 セントラルレディースクラシック競技開催
(優勝: サンドラ・パーマー、準優勝: 樋口 久子)
- 昭和49年(1974年) 12月 日本女子プロ月例会開催
- 平成 2年(1990年) 1月 新クラブハウス竣工
- 平成 3年(1991年) 5月 スタートハウス売店及び浜名湖売店建設
- 10月 中売店・潮見売店建設
- 平成13年(2001年) 5月 5人乗り乗用カートの導入
- 平成18年(2006年) 10月 グリーンの改造工事完成(高麗からベントに) 設計は新井 剛氏
- 12月 風力発電事業の開始
(塔の高さ68m、羽根の長さ31m、発電能力1,000kw/h)
- 平成23年(2011年) 4月 50周年記念事業として乗用カート全70台を電動カートに更新
- 平成25年(2013年) 4月 女子浴室、コース内茶店改装
- 平成26年(2014年) 6月 ゴルフカートナビシステム「マーシャルナビ」の導入
- 平成29年(2017年) 4月 ロイヤルカントリークラブ(愛知県)と友好提携開始
- 10月 100ヤード超のアプローチ練習場の完成
- 平成30年(2018年) 8月 インターネット予約システムの導入
- 9月 正会員専用ロッカーIC化、自動精算機導入
- 平成30年(2018年) 10月 チェックインカード導入、IC対応ボール貸出機導入
- 平成31年(2019年) 3月 日本プロゴルフ選手権予選会開催
「第5回 USGA* ゴルフ・イノベーション・シンポジウム」にて全世界に向け
社長が風力発電事業についてプレゼンテーションを行う *USGA=全米ゴルフ協会
- 令和2年(2020年) 12月 松本カントリークラブ(長野県)と友好提携開始
- 令和3年(2021年) 5月 乗用カート及びカートナビの更新
- 7月 伊豆大仁カントリークラブと友好提携開始
- 10月 開場60周年記念 会員の日杯 開催



開場60周年記念

HAMANAKO

浜名湖ニュース 記念号

October. 2021

【巻頭】Special Interview 特別インタビュー

鈴木修(スズキ株式会社 相談役) × 藤田正治(浜名湖観光開発株式会社 社長)

社長挨拶

60周年記念事業

浜名湖C.C.のビフォー&アフター

バックナンバー “The History” より

沿革





Special Interview 特別インタビュー



鈴木 修 スズキ株式会社 相談役 × 藤田 正治 浜名湖観光開発株式会社 社長

浜名湖カントリークラブは株主会員制メンバーシップクラブとして1961年10月にオープンしました。

2021年10月、開場60周年を迎え、浜名湖ニュースの記念号を発行し、

歴史を辿りながら未来を明るく見つめたいと思います。

発行にあたり名誉会員・筆頭株主で開場当時から当クラブを良く知る、スズキ株式会社の鈴木修相談役に、この60年を振り返っていただくとともに、今後の目指すべき方向などについて、ラウンド前に藤田社長が伺いました。

藤田：本日は宜しくお願いします。御社には長年大株主として、会社・クラブの経営に携わっていただき、中でも相談役には1996年3月から2年間、クラブの理事長、会社の社長を務めていただきました。まずは創業当初の浜名湖カントリークラブについて教えて下さい。

鈴木：まずもって創業60周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。さて、浜名湖カントリークラブさんは他のゴルフ場と異なり、藤田観光さんから静岡銀行の平野頭取さん(当時)にお話があり、当時隆盛を極めていらした繊維会社の皆さんを中心に、浜松信用金庫さん、河合楽器さん、及び私どもスズキ等が出資した株式会社としてスタートされました。株主がプレイヤーで、浜名湖カントリーのコースは私たち株主のゴルフ場という精神で、静岡県西部地区でNo.1の風格を持つゴルフ場となるよう出資者全員で盛り上げていました。会長に静岡銀行頭



取の平野繁太郎さん、社長には私の義父の鈴木俊三が各々就任して、一流のゴルフ場というだけでなく、株式会社として利益を出して株主に配当を行うという理想の実現に燃えていましたよ。その後も平野さんが会長兼社長として経営の舵取りをして下さり、順調に業績を伸ばされたのは、さすがと申し上げるほかありませんでした。ただ平野さんの後はというと...

藤田：現在浜名湖カントリークラブと浜名湖観光開発を預かる身としては、大変伺いづらいのですが、現在の浜名湖カントリークラブに対する思いをお聞かせいただけますか？

鈴木：創業の精神が失われていると感じています。浜名湖のほとりに静岡県西部地域No.1の『名門』ゴルフ場を作るはずが、今では『迷門』になってしまっているのではないのでしょうか(笑)詳しくは申し上げませんが、かつての経営方針が浜名湖カントリークラブの『格』を貶めてしまったことは事実です。来場者を増やすために様々な施策を打ったのですが、結局プレー単価を下げたしまい、いわゆる薄利多売の大衆化路線をひた走る結果となってしまいました。入場者が増え過ぎればお客様への目配り・気配りが行き届かなくなり、ゴルフ場自体も傷んでしまいます。ハードもソフトも荒れてしまったゴルフ場の価値は低くなることはあっ

ても、高くなることはありません。そうして会員・株主の皆さんだけでなく、ビジターを含む全てのプレイヤーの心が離れてしまいました。創業当初から浜名湖カントリークラブに関わってきた者としては寂しい限りです。

藤田：全く同感です。私は浜名湖カントリークラブの理事長、浜名湖観光開発株式会社の社長として、目先の利益を追うのではなく、浜名湖カントリークラブがこの先70周年、或いは100周年を、地域で『No.1のグリーン』『No.1のフェアウェー』『No.1の景観』そして『No.1の会員』を有する名実ともに『No.1の名門コース』として迎えることができるように、歯を食いしばって基盤造りに取り組んでいるところです。

鈴木：頑張ってください。最近はゴルフを始める若い方々が増えていると聞いていますが、そんな若いゴルファーたちが憧れ、プロゴルフツアーが開催される名門コースのように『いつかは浜名湖でラウンドしたい』と思ってもらえるようなゴルフ場を目指してください。『安いから浜名湖カントリークラブで』と言われることが無いように頑張ってください。私も年に一度位は浜名湖カントリークラブでラウンドさせてもらいますよ。

藤田：ありがとうございます。最後に、現在91歳の相談役がゴルフを楽しんでいる健康の秘訣を教えてくださいいただけますか？

鈴木：秘訣と言える程のことはありません。よく食べ、よく働き、よく眠ること。加えてゴルフで自然の中を歩きながら、嫌な人の顔をボールに思い描いて思いっきり引っぱたいてストレス解消。これに尽きますね(笑)

藤田：私の顔がボールに浮かんでいないことを祈ります(笑)今日はありがとうございました。ラウンドをお楽しみください。





開場60周年を迎えて

代表取締役社長 兼 理事長 藤田 正治

今月10月に当クラブはおかげさまで開場60周年を迎えることができました。

開場当時の昭和36年(1961年)12月期の営業報告書を見ますと「開場間もないゴルフ場としては稀な入場率を示し、遠近ゴルフ愛好者より絶賛を得ております」「今後コースの整備と相まって諸施設の充実強化を図るべく計画いたしておりますので、必ずや県西部観光地に相応しい名ゴルフ場として皆様のご期待に副い得るものと確信いたしております」(「」内は原文のまま)との記載があります。

爾来60年に亘り当クラブの発展にご尽力賜りました諸先輩の労苦に心から敬意を表しますと共にご

支援いただきました会員並びに関係者の皆さまに深く感謝申し上げる次第でございます。

開場60周年記念事業

開場60周年を迎えるにあたり様々な事業を実施してきました。

ゴルフ場にとって何より重要なコースについては「戦略的で広々とした明るいコース作り」のため、グリーンのリフォームの際、設計を依頼した著名なゴルフ場設計者である新井剛氏を招聘し2019年より約600本の樹木伐採と剪定、裸地への芝の植栽を進

め、トーナメントも実施可能なコース改善に取り組みました。これにより多くの会員の皆さんから良いコースになったとの評価を頂けるようになったと思います。記念事業の詳細をコース関係、クラブハウス関係に分けて6~9頁に掲げましたのでご覧ください。

地域の名門ゴルフ場を目指して

ゴルフ場業界は折からの新型コロナウイルス感染の「第6波」が懸念されウィズコロナ下の生き残りを模索する中、ゴルフ参加人口を支えてきた団塊の世代が75歳に達する2025年問題が迫ってくるなど経営環境は引き続き厳しい状況が続くものと思われます。

「レジャー白書2021」によれば、ゴルフを1年に一回でもやる人は520万人。ピークの1994年には1,450万人でしたからピークの4割弱に減っており、15才以上の日本の人口のわずか5%に過ぎません。日本人100人のうちゴルフをやる人は5人しかいないということになります。こうした環境下で、現状に甘んじ改革を怠ると当クラブも例外でなく時代の流れに取り残されてしまいます。

一方で明るい話題もあります。

今年はマスターズを日本人で初制覇した松山英樹プロや19才で全米女子オープンに勝った笹生優花さん、東京オリンピックで見事銀メダルを獲得した稲見萌寧さんなど世界の大舞台で日本人選手が大活躍しています。また国内男子のメジャー大会である日本プロゴルフ選手権で浜名湖CC所属の小野田享也プロが4位になったのも記憶に新しいところです。ゴルフに関わるものとしてゴルフが世間の注目を集めていることをとても嬉し



く思います。

もう1つはゴルフを始める20~30代の若者が増えているということです。平日に休みを取りやすくなったことに加え、ゴルフは屋外スポーツでコロナに感染するリスクが相対的に低いと評価されていることも大きいと思います。

さてゴルフは健康に良い影響を与えるということが以前から言われており、ゴルファーの寿命はゴルフをやらない人より5年長いこと、またゴルフは適度な運動かつ頭を使う活動であり4人でプレーすることにより会話が促進されアルツハイマー型認知症の予防条件にぴったりとあてはまるということです。

こうしたゴルフの良さをPRしながら、当社の企業理念である「来場されるお客様に最高のサービスを提供し地域社会の発展に貢献します」を全社員と共有し、皆さんがまた来たくくなるような、そして「浜名湖CCのメンバーは皆さんエチケット・マナーが良く安心してプレーできる、さすが地域の名門ゴルフ場だ」と評価されるようなゴルフ場造りを皆さんのご協力をいただきながら目指して参ります。どうぞご期待ください。

皆さまにはより一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



開場60周年記念 実施事業

コース関係

- ・コース内樹木伐採、芝・花木植栽
- ・フェアウェイ芝刈機、ラフ刈機他最新機械 導入
- ・アプローチショットエリア リニューアル
- ・電磁誘導線 更新
- ・カート道、人工芝張替工事
- ・中3番グリーン、潮見1番ティーイングエリア周り
ウレタン舗装工事
- ・機械倉庫新築工事

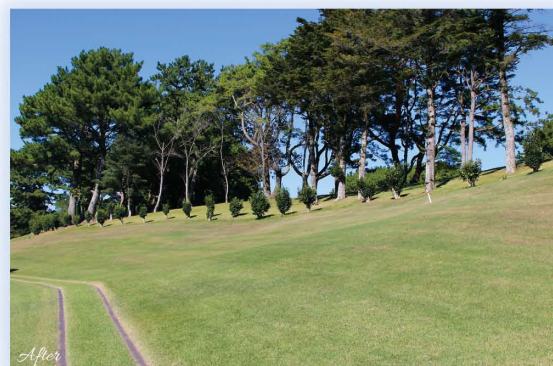
クラブハウス関係

- ・乗用カート及びカートナビ 更新
- ・玄関前看板設置
- ・進入路石製看板整備
- ・国道42号沿い野立看板新設
- ・チャンピオンボード・ホールインワンボード新設
- ・自動精算機、ロッカーなどIT化の推進
- ・会員相互友好クラブ提携
(松本カントリークラブ、伊豆大仁カントリークラブ)
- ・広重の「東海道53次 白須賀宿」をモチーフにした
記念クオカード作成
- ・プロゴルファーを目指す研修生の受け入れ
- ・ホームページ全面リニューアル
- ・K-MIXでのラジオ広告とゴルフクリニックの開催
- ・来場ポイント還元サービスの実施
- ・レストラン厨房改良及び調理機器新調



60周年記念事業の目玉！ コース整備のBefore&After

樹木伐採、花木植樹、芝育成など… コース改革の一部をご紹介します。
今後もより一層ゴルファーの皆様が気持ちよくプレー出来るコース作りに励んでまいります。



もみの木などの下枝、椿、山茶花も選定ですっきり。



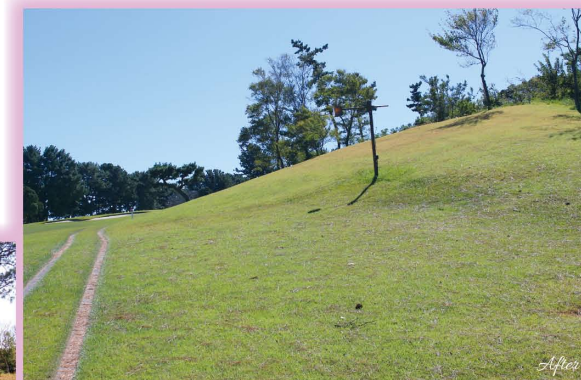
春には桜、冬には鴨が歓迎してくれます。



左の林帯を伐採、伐根で下の芝生もイキイキ。



簡単にするのではなく、挑戦心をくすぐるコースに。



台風で弱いテーダ松を伐採、日陰で根付かなかった裸地が青々とした芝生に生まれ変わりました。

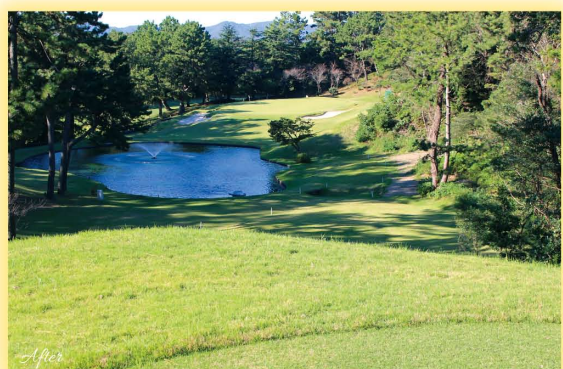


浜名湖 No.5



グリーン奥の木々を伐採しました。

富士山がこんなに大きく見えるようになりました。



トーナメントティにふさわしい景観になりました。



中 No.2



左の山の木がすっきり！スタートホールにふさわしく豪快にティショットが打てるようになりました。



中 No.1



浜名湖 No.1



The History

【vol.1】
1961~1973

温故知新

開場52年になる浜名湖カントリークラブ。松も大きくなり、グリーンも高麗からベントへ変わったが、積み重ねた歴史は立派に育った松同様、誰にも真似することはできない。会員の皆様や携わった方々に感謝しつつ、当時のゴルフ場の様子や楽しかったクラブハウスイブを少しずつ紐解いてみることにした。



開場当時のクラブハウス

記録に残る
歴代クラブチャンピオン

KENJU TOYODA

AKIRA SHIMIZU

AKIRA SHIMIZU

KENJU TOYODA

KENJU TOYODA

HIROSHI ARAI

KENJU TOYODA

KENJU TOYODA

KENJU TOYODA

KATSUMI NAGAYA



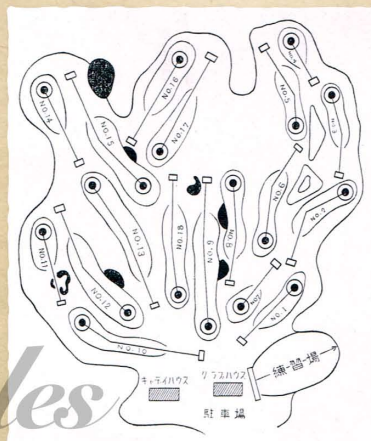
5周年の開場記念。カントリー下の交差点に掲げられた横断幕。地域を挙げてのお祝?

昭和40年頃の浜名湖1番。松の低さが歴史を感じる。キャディもバックを担いで。



コース略図

名匠安田幸吉氏によるパー72、6,925Yの18ホールズは浜名湖がOUT、中がINになっている。まだ潮見コースはない。このころ今のコース管理駐車場あたりにプール、現在のお客様駐車場南西には宿泊施設があったらしい。



The History

【vol.2】
1971~1981

ゴルフ&リゾート

18Hでオープンしたコースは1969年から潮見コースを増設し始める。'71年7月現在の浜名湖・中・潮見コースの27Hsで開設。夏ともなれば、男性陣がラウンド中、奥様や子供たちはプールで遊んで待っていた。そんなリッチな空間はさしずめゴルフ&リゾートの走りともいえるだろう。さらにこのころは競技も盛んで'71年11月にはロベルト・ビゼンソ、謝敏男、豊田明夫プロによるエキシビジョンマッチが行われ、'72年には中部オープン選手権競技、'73年にはセントラルレディスクラシック競技、'74年12月には日本女子プロ月例会が開催された。クラブチャンピオンには今も活躍する選手が登場する。30年以上にわたる活躍を尊敬すると同時に競技以外でも開設当時からゴルフを楽しんでくださっている方々に改めて感謝したい。



懐かしいプールサイド。井戸水だったため、ちょっと冷たかったらしい。

記録に残る
歴代クラブチャンピオン

KENJU TOYODA

KENJU TOYODA

KATSUMI NAGAYA

KENJU TOYODA

KOUICHI ISHIHARA

TERUJI SUGIYAMA

TERUJI SUGIYAMA

KOUICHI ISHIHARA

TERUJI SUGIYAMA

TERUJI SUGIYAMA

TERUJI SUGIYAMA



潮見コース開設前のNO.3と思われる。



潮見コースNO.3の初期のころ。まだNO.6のティーインググラウンドの方向の木々もまばらでNO.4はもちろん中コースNO.7まで見渡せるほどだったに違いない。橋を歩いて渡るのが怖かった思い出をお持ちの方もいらっしゃるのでは? 右の写真は現在の潮見コースNO.3、同じロケーションで撮影。



20th 1981

18holes

The History

【vol.5】
コース改造

高麗グリーンからベントグリーンへ



中2の池には平成5年まで橋が架かっていた。
ボールがこの橋を渡ってホールインワンしたエピソードも。



中2の高麗グリーン手前からは
打っても打っても届かない逆目の上り。



中2 現在のベントグリーン。



中7馬の背。冬の月例で22パット打った方が
いるのは語り草になっています。



広いフェアウェイ、大きいワングリーンが自慢の当クラブも長い歴史の中で何度かコースの改造を重ねています。

当初、日本のグリーンは高麗芝が主流でしたが、品種改良によって日本に合った洋芝が次々と生まれました。平成16年、当クラブも満を持してベントグリーンに変える工事に乗り出したのです。グリーンの改造に伴ってコースの改造もされました。例えば、以前の中の7番（通称馬の背）はクロスバンカーは右にあり、左の傾斜からやっとのったグリーンはまさに馬の背でした。

こんな風に昔のコースを懐かしむ時、コースや道具やボールが進化し変っても、変わらないマナーやスコアにゴルフの魅力と不思議を感じる方も多いことでしょう。そして浜名湖カントリークラブは“秩序あるプレイのためのゴルフ場に”の信念のもとに今も進化し続けています。

The History

【vol.7】
Architect

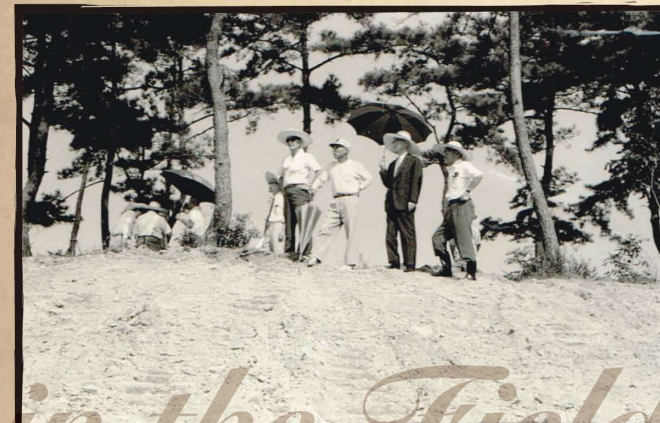
設計者 安田幸吉を想う

【1905(明治38)～2003(平成15)年】



プレーしたいゴルフ場の選択肢に、「誰が設計したか」があるのではないのでしょうか。浜名湖カントリークラブを設計した安田幸吉氏も人気のゴルフ場設計者の一人でしょう。

安田幸吉氏は名門【東京ゴルフ倶楽部】のキャディを経て、後に唯一の【東京ゴルフ倶楽部】の名誉会員となる関東第1号のプロゴルファー。1929年には日本人プロ初の海外遠征メンバーになり「ハワイアンオープン」に出場したことも知られています。日本プロゴルフ協会の初代理事長で1991年の勲三等瑞宝章叙勲もプロゴルフ界初でした。ゴルフ場設計は全国で50コース以上、今も語り継がれる数々の名勝負の舞台になった【小樽CC】も彼による設計です。



彼はコース造りをするにあたって「コース造りは庭造りと同じで、人工の自然を本当の自然らしく見せるように造る。土地と植物が馴染み、調和した美しさが年を経れば経るほど、出てくるようにしたい。どんな人でも遊べ、楽しめるように柔らかな表情をみせ、上級者には難しいのがいい。」と語っています。

今の浜名湖カントリークラブを彼はどう思うでしょう。私たちは自分たちのコースに誇りを持っているだろうか、大切に受け継いでいるだろうか。そう考えながら、改めて安田幸吉氏と彼を設計者に選んだ先人たちに想いを馳せさせる。



The History

【vol.9】
Caddie



キャディはゴルファーの唯一のパートナー

もともとキャディはゴルフ場周辺の少年が仕事としていた。その中でお得意様にゴルフを習い、プロゴルファーになった人も少なくない。宮本留吉、青木功etc.浜名湖CCの設計者安田幸吉もその一人である。

浜名湖カントリークラブができた頃も学生のアルバイトや近くに住む女性たちがキャディを務め、1人2つのバッグを担いでいた。もちろん徒歩で重労働だった。11月23日「勤労感謝の日」には「働くクラブとキャディ」の為に「6本競技」なるものもあったくらいだ。

会員はゴルフ(マナー・ルール)を正しく教え、キャディを育てた。教えられたキャディはカントリーで働くことを誇りに会員やゴルフ場と一緒に成長してきたに違いない。

ここ10年、乗用カートの普及に伴いセルフプレイのゴルフ場が増えている。キャディはゴルファーにとって唯一の味方でありアドバイスを受けられるパートナーのはずなのに、クラブを運ぶだけならカートで充分だということだろうか。

浜名湖CCはキャディ付のメンバーシップのゴルフ場である。新卒のキャディも増えてきた。プレイヤーの要望は様々だろうが、つまりは皆がゴルフを楽しむため、先人たちがそうしてきたようにキャディを正しく大切に育てたい。



1998年と1990年の浜名湖ニュースにキャディと会員の関係を垣間見る会員の記述がありましたので本文はそのまままで抜粋しました。

「キャディはクラブの看板として、プロ意識に目覚め、プライドを以て、プレイヤーのすばらしい伴侶となるべく、マナー・ルールなどを勉強し、切磋琢磨しています。会員は常時より指導役となってキャディのご指導役を務めて下さい。そのときその場で教えて下さい。」

キャディーの立場から見たワースト10は次のようなことがあります。

1. ルールを知らない。
2. とにかくプレーが遅い。
3. 遠くからクラブを持って来るように呼び寄せる。
4. 自分のボールの行方を見ていない。
5. スタート時間に遅れてくる。
6. ターフをもとに戻さない。
7. 自分のミスキャディーのせいにする。
8. いつまでもロストボール探しをさせる。
9. ミスショットの言い訳がひどい。
10. キャディーの忠告を聞かない。

プレイヤーの皆さん、エチケット、マナーを守って、くれぐれもキャディー達にきられないように、ゴルフを楽しみましょう。

The History

【vol.10】 — To the Future —



未来に託す歴史



開場55年目を迎える浜名湖C.C.の入場者数が1月2日に300万人を超えた。延べ300万人のプレイヤーの足が、クラブが、浜名湖C.C.の土を踏み、グリーンを歩いて作り上げてきたのだと思うと感慨ひとしおである。そう、プレイヤーがゴルフ場を育ててきた。そして大きくそびえた木々たちはそれをずっと見てきた。今、私たちはその年輪に恥じないプレイができていますか。

今年はオリンピックイヤー。ゴルフがオリンピックの種目として加わり、ルールも大幅改定年を迎える。東京オリンピックに向けてゴルフへの意識を世界レベルにという兆しもある。

ゴルフルールブックの初めにこうある。

球はあるがままにプレーせよ
コースはあるがままにプレーせよ
それができないときは
最もフェアであると思ふ処置をとる
最もフェアである処置をとるためには
ゴルフ規則を知る必要がある

どんなにゴルフ場が変わってもこのことだけはたぶん変わらない。ゴルフには審判と相手がいない。だからそれぞれの価値観で自分が試され、楽しくするもしないのも自分次第となるのだろう。今日のプレイが明日の浜名湖C.C.の歴史になる。これからも私たちはプレイを楽しみながら、このことを肝に銘じて誰もが楽しめるゴルフ場をみんなで作っていかねばならないのだと思う。

未来に歴史を託して
—The History—はしばし幕を下ろす。



Future